

平成 29 (2017) 年度 追手門学院大手前中・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

教育理念「独立自彊・社会有為」を体現する「人財」育成をすべての教育活動の根本とする。

すべての生徒が、自己の成長と周りへの貢献を意識して、満足した学校生活を送り、希望の進路実現を果たせる学校づくりを進める。そのために、

① 自ら学び、考え、他者と共に成長する生徒
② 未来を切り拓くたくましさ・高い志・品格を備えた生徒を育成する学校をめざす。

2 中期的目標

1. 学校の社会的評価を高めるために、理念に即した教育を展開し、それを積極的に発信する。
 - (1) 本校教育に対する社会的評価を高めるために、組織として、個人として取り組むマインドを醸成する。
 - (2) 本校教育の成果の検証を十分行ったうえで、その成果発表の機会として、積極的な外部発信を実施する姿勢を持つ。
 - (3) 学校の教育の取り組みを内外に発信する。
2. 個人として、また組織として教育力を向上させ、生徒・保護者の満足度の向上につなげる。
 - (1) 学力伸長・進学実績の向上の課題を最優先課題とし、生徒の満足度向上を図る。
 - (2) 教員評価・学校評価の制度を改善し、目標を達成することで、学校力の向上・満足度の向上につなげる。
 - (3) OJT を通じた授業コーチングを行い、個人として、また組織的に授業力向上を図る。
3. 本校における新たな時代の学びのあり方を検討し、5つの教育を軸とした新しい教育を展開する。
 - (1) 各種委員会を定例で開催し、中・長期的な展望を持って教育の方向を決定する。
 - (2) 新たな時代の学びについて研究し、授業の改善を通じて生徒の学ぶ力を向上させるシステムを構築する。
 - (3) 総合学習をはじめとした新しい教育への準備と実践に組織的に取り組む。
4. 学院内での連携をさらに進め、教育力の向上につなげる。
 - (1) 大学教務課・入試課との連携会議を計画的に行い、追手門学院大学との教学面・進学面での連携を深める。
 - (2) 追手門学院小学校との教育方針・理念のつながりを意識し、本校の教育内容を整理して、教育面でのつながりを強化する。
 - (3) 茨木中・高との70周年事業に向けて定期的な交流・研修を実施し、相互の教育力の向上につなげる。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成 29 年度実施]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導関係及び担任指導で今年度も高い評価を維持できた。 ・学習指導、大学受験対応等についても満足度が上昇している。 ・友人関係においてもよい評価を維持している。 <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のロイヤルティ指数（「本校を勧める」割合）は、近年上昇しており、今年度は複数の学年で6割に達したこともあり、学校全体で過去最高評価となった。 ・礼儀服装指導、家庭連絡や学習習慣指導の各項目においても、過去最高評価を頂いた。 <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭連絡、学習意欲や教え方および規範・礼法教育の面での取り組みに高い自己評価結果が得られた。 ・進路指導に関わる取り組みについても評価を得た。 <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の満足度は全般的に向上している。特に保護者のロイヤルティ指数（「本校を勧める」割合）について過去最高の数値を得ることができたのは、学級経営においてことにきめ細かい生徒指導や保護者との連携があったからである。 今後も、教え方の工夫や大学受験対応に関わる進路指導体制をより一層充実させることで、生徒の満足度と、それに伴う保護者の満足度を更に高める取り組みを進める。これらの取り組みの充実を通して、進学実績の向上と更なる志願者数の増加につなげることが喫緊の課題と考える。 	<p>○学校経営目標については、学校が目指す方向は分かり易く良いと思う。育てたい8つの力の育成にしっかりと取り組んでいただくとともに、進学するための学力についてもしっかりと伸ばしていただきたい。</p> <p>○HPの記事の更新が頻繁に行われていることは良いと思う。</p> <p>○志入試について、コンセプトが十分に周知・理解されていない点もあり、否定的な考えの方もおられるので、内容をしっかりと伝える取り組みをしていただきたい。</p> <p>○全体に入學予定者が増えているのは喜ばしい。</p> <p>○進路指導に関して、大学受験に関する様々な客観的な情報をもっと発信していただきたい。⇒月に1回程度の保護者対象進学説明会の実施について検討する。</p> <p>○国公立大学を目指す指導に加えて、関関同立への進学を考えている人も多いと思われるので、関関同立への進学実績が伸びる取り組みも意識していただきたい。コースごとの差異化をもっと図っていいのではないかと。</p> <p>○生徒・保護者の満足度に関しては、進学面での保護者の期待に十分応えられるように学力強化をさらに図っていただきたい。</p> <p>○これから“新たな学び”への取り組みは重要と思うので先生方自らのプレゼン力の強化に励んでいただきたい。</p> <p>○挨拶がしっかりとできる生徒は多くいるが、そうでない生徒もいるので根気よく指導を進めていただきたい。</p> <p>○学院内の連携については、PTAにおいても連携が進んでいて、各校の色々な情報が聞かれるようになった。教育振興会としての連携は大切と思う。小学校からもう少したくさん入学してほしい。両中高の交流が進んでいることは知っているが、HPだけではなく、PTAの集まりにおいても話してほしい。</p> <p>○今後の取り組みとして、SNSの指導の強化、公立では経験できないことを経験させてほしい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 理念に即した教育の実践による社会的評価の向上	<p>◇本校教育の発信を通じ、全教員で安定した生徒募集活動に取り組む。</p> <p>◇社会評価の向上による更なる志願者数の増加をめざす。</p>	<p>(1) 全教職員が経営マインドを持って募集定員確保を実現させる。</p> <p>(2) 受験生・保護者・教育関係者との良好な関係性構築に努める。</p> <p>(3) 理念に則した本校教育の成果を内外へタイムリーに発信する</p>	<p>(1) ・学校案内の内容を理解し、本校教育の優位性を共有したうえで、全教員での中学・塾訪問を実施</p> <p>(2) ・主任会議の開催とアンケート調査 ・担当部署からの進捗状況報告・取り組みの公開</p> <p>(3) ・頻繁な記事更新 ・公開授業の実施</p>	<p>(1) ・教員が経営マインドを持って生徒募集に取り組む姿勢がさらに定着した。中学定員充足に拘って募集活動を進められた。 ・中学定員充足に向けてやるべきことが整理され、実行できた。</p> <p>(2) ・受験生・保護者・教育関係者とさらに良好な関係性の構築ができた。 ・大手塾からの入学者も増やすことができた。</p> <p>(3) ・発信の頻度においては、昨年度から続いて大きく前進した。 ・外部からのHPへの訪問者がさらに増え、固定的な訪問者やファンを増やすことに成功した。</p>
2 教育力向上の取り組み	<p>◇生徒の学力伸長と進学実績向上に集中した取り組みを推進する。</p> <p>◇国公立・医歯薬・関関同立のそれぞれで目標数以上の合格実績を達成するべく、教育力のより一層の向上を図る。</p>	<p>(1) 教員個々の授業力・進学指導力向上を第一の課題とし、それを総合的な学校力向上に結び付ける。</p> <p>(2) 進学実績向上PJを立ちあげ、学校のシステム・戦略・戦術面でのブラッシュアップを行う。個別学習サポートのシステムの整備と自習室利用の活性化に取り組む。</p> <p>(3) 生徒主体の新たな学びの研究・実践を学校全体で推進する。</p>	<p>(1) ・主任会議・職員会議等での浸透、研修実施 ・学期ごとのチェックと総括を実施、アンケート評価 ・授業見学・授業コーチングの実施</p> <p>(2) ・学習3部会の活性化 ・学校評価アンケート満足度向上、研究誌『はくる』の発行</p> <p>(3) ・学校評価アンケート ・教員研修を実施、優れた実践発表の場を設定</p>	<p>(1) ・数値目標を設定し、組織的な取り組みも整理されてきたが、達成率は十分ではなかった。 ・数値目標を掲げ、具体的な取り組み方法も整備してきた。</p> <p>(2) ・PJを立ち上げ、1年を通じて活動ができた。年間の活動を整理し、計画的に取り組むことができた。 ・進学向上PJを立ち上げることで教員への発信や、具体的に成果に結びつける方法の共有が進んだ。自習室の活性化やチューター等の整備も進んだ。</p> <p>(3) ・新たな学びの推進チームもでき、進み始めた。2019年、2020年に向けての準備を始めることができた。 ・茨木中・高とも協力し、新たな学びの取り組みの準備を進められた。</p>
3 学力向上・人間形成の取り組み	<p>◇生徒・保護者の満足度向上の取り組みを推進する。</p> <p>◇学校評価アンケートの保護者推薦度を中・高全体で55%以上にする。</p>	<p>(1) 学習・進学の取り組みに集中し、PTA総会・学年会や保護者向け進学講演会などの情報発信の機会と参加者数の増に努める。</p> <p>(2) 毎週の主任会議等での進捗管理を徹底し、評価が低い項目の改善につなげる。</p> <p>(3) 5つの教育（新たな学び/ほめことばシャワー・プラス/グローバルキャリア教育/ICT・ロボットサイエンス教育/主体性教育）の成果の検証を行い、成果発表の機会を積極的に持つ。</p>	<p>(1) ・学習指導部主導の学力分析会の実施</p> <p>(2) ・教科で方法を確立、全体での共有化 ・新たな中学総合学習のシラバスに基づいた実践</p> <p>(3) ・全校集会の講話、「生徒指導便り」の発行、毎日の挨拶運動の継続実施 ・ほめことばシャワー・プラスの研究・実践の内外への発信</p>	<p>(1) ・学習・進学指導に集中して取り組むというシステムとしては、計画をたてことを実行に移すことができた。 ・低学年時からのPTA対象の取り組みを昨年度に続き実施できた。</p> <p>(2) ・初等中等室の支援も受け、目標のシート作りから丁寧に取り組めた。生徒・保護者の満足度向上を意識して取り組めた。 ・目標管理のための方法が先生方により浸透した。満足度向上への意識が特に中学で高まり、高い学校推薦度につながった。</p> <p>(3) ・「はくる」を成果発表の場として継続的に成果の検証と発表に取り組めた。</p>

<p style="text-align: center;">4 一貫連携教育</p>	<p>◇学院内での連携のさらなる強化に取り組む。</p> <p>◇追手門学院大学への進学者数を目標数以上にする。</p> <p>◇追手門学院小学校からの入学者を目標数以上に獲得する。</p>	<p>(1) 茨木中高との教科間の定期的な交流を深め、計画的で有効な人事異動・交流を進める。</p> <p>(2) 大学のアサーティブプログラム、アサーティブ入試に関する連携を深める。</p> <p>(3) 追手門学院小学校の教員との教科間交流を拡大し、成果発表の場を持つ。</p>	<p>(1) ・教科交流会の実施 ・人事異動・交流の計画立案</p> <p>(2) ・月1回ペースでの会議開催 ・内部進学者数の増加</p> <p>(3) ・教科間交流の推進 ・公開授業参加 ・クラブ発表会の実施</p>	<p>(1) ・学院併設校との連携は継続しており、評価アンケートで「総合学園である長所を生かす」の評価数値が過去最高となった。なかでも茨木中高とは、新たな学びへの取り組みを軸として教科間交流の更なる活性化を図り、2019年度、2020年度への準備を進めている。</p> <p>(2) ・高大連携推進チームでの入試課との打ち合わせは月に1回のペースで持つことができた。アサーティブプログラムとの連携は高2でスタートできた。</p> <p>(3) ・教科間の交流は各教科で進んだ。教科指導を通じて追手門学院小学校の教育への理解が進んだ。 ・追手門学院小学校との教科の交流は複数回にわたり、その機会を持つことができた。</p>
---	---	---	--	--